

---

# 巡り巡って

ぬじゃわきし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

巡り巡って

### 【Nコード】

N5422N

### 【作者名】

ぬじゃわきし

### 【あらすじ】

輪廻が解明され、訓練次第で死後に前世の記憶がもつてくることが可能になった世界。簡単に自殺して新しい人生を歩む世界。そこでいきつく恐怖の結論とは！？ブラックユーモアSFホラー。

大通りで二人の青年が歩いていた。彼らの名は相田と青谷である。彼らは大の親友同士であつた。

二人が道を歩いた時、女子高生たちにすれ違つた。女子高生は以下のような会話をしていた。

「そいえばさあ、巡子さあ、前世何だつたの？」

「あたし？丸田比助つて3年前に生まれた人。生物学の教授だつたわ。」

「どうりで理科が得意なわけね。」

「全部覚えてるわけじゃないけどね。真美子は？」

「29日後に生まれる狭山さん。」

「へえ、真美子は未来生なんだ。」

「うん。」

会話を聞いて相田は青谷に訊ねた。

「未来生…てなんだっけ？」

「未来から転生してくる人の事。」

「そんなのってあり得るの？」

「霊界は時間の概念がない。だから死んだ時に過去に遡つて転生できるんだ。」

「ふーん…しっかしねー。輪廻転生が科学的に証明されるなんてねえ。」

「前世からの傷痕、つまり前世痕が紛れもない証拠となる、て九星教授が発表して、世界が大騒ぎさ。輪廻を否定していた宗教が急いで見直しを進めている。」

「ふーん…それにしても、前世の記憶、てどついう仕組みで受け継がれるの？」

「前世の記憶は前世痕と同じだ。人は死んでまた転生する時に死ん

だ時の身体や記憶が脳や身体に刻み付けられるのだ。最近はその鮮明にするテクニックが開発された。」

「どうすればいいの？」

「訓練さ。」

「訓練？」

「死ぬときにスピリチュアルな領域まで記憶を刻む訓練さ。」

「でも訓練って言ったって、一生は一度しかないだろ？」

「まあ、昏睡状態における仮想訓練みたいなのはやったさ。実際に訓練したのは3回。」

「3回死んだの？」

「そうだよ。記憶が正しければ僕は今まで60年は生きてる。」

「60年？人生3回分にしては短くないか？」

「まあ訓練だからね。」

「ふーん。」

「例えば、見てごらん。」

青谷はそう言っ、突然銃を取り出して自らの頭をバアンと撃ち抜いた。青谷はどさっと倒れ、相田はあまりの突然の悲劇に青ざめた。

「大丈夫だよ、相田くん。」

と背後から声が聞こえた。見ると、相田にとって見知らぬ中年の男が立っていた。相田は訊ねた。

「どなたですか…？」

「一応名前は伊網だけど、前世が青谷だった僕だよ。」

「青…谷…？」

「そうだ。まあ、こんな感じで以前の記憶をひきずる事ができる。」隣で横たわる死体をよそに、二人は駅に向かいながら会話を始めた。  
「どんな訓練したの？」

「興味あるのかい？止めた方がいい。辛いぞ。何度も臨死体験しないといけない。」

「そうか…」

そう言いながら二人は駅についた。外見の全く違う“青谷”と話す

のはなんだか奇妙な気分だと相田は思った。今度は“青谷”として、というより今の伊綱として質問してみよう。

「でさあ、今はどんな人生送ってるの？」

「まあ、以前よりは面白くない。劣等生で、努力をしても報われない、そんな人生だよ。」

“青谷”はあくびして

「あーあ。人生つまんないなー」

とおもむろに言いながら銃を取り出して自分をバァンと撃ち抜いた。相田はまたやつちまったか、と思い、とりあえず死体を無視して先進んで、改札抜けて、人が溢るホームに出た。その時、声が聞こえた。

「相田くん！」

見るとクラスメートの女子の皿田であった。彼女はその名前とその植物的雰囲気により野菜というあだ名があった。

「野菜じゃん。おはよ。」

「おはよ！」

「どうしたの？」

「いや…ね、相田くん…告白しなければいけない事があって。」

「何？」

「私…ね…」

「うん。」

「…実は“青谷くん”なの。」

相田は思わず訊ねた。

「え！？」

「だから、さっきのおじさんだったの。だから青谷くんの転生の転生なの。」

「…！」

まさかそんな事とは…と相田は驚愕した。そして訊ねた。

「野菜、と言うべきか、青谷、と言うべきか…」

「野菜、でいいわよ。」

「野菜ちゃん。そんなに簡単にぽんぽん死んで罪悪感とかショックとかないの？」

「慣れちゃった。」

「慣れた、て…でも命を大切にしようよ。」

「でもいくら死んでも転生するんだし。」

「そんな…」

「でもさあ、相田くんも、ルーツを探れば私や“青谷くん”の転生だよ。」

「え？」

「それどころか、」

皿田は言った。

「みんな、“青谷くん”よ。」

ホームの人々が突然相田を向いて「にひひひ」と笑いだした。

相田は「わあ！」と悲鳴を上げて逃げ出した。無我夢中で逃げ出した。そうか、人類みな、もともと同じ人間なのか。自分なんて無いのか。さっきの光景が目にはらついて相田は周りが見えなかった。おかげで道路を走るトラックに衝突してしまい、即死した。

その後、相田は坂田という人に転生した。坂田は青谷の訓練前、つまり三代前の前世の人であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5422n/>

---

巡り巡って

2010年10月9日00時15分発行